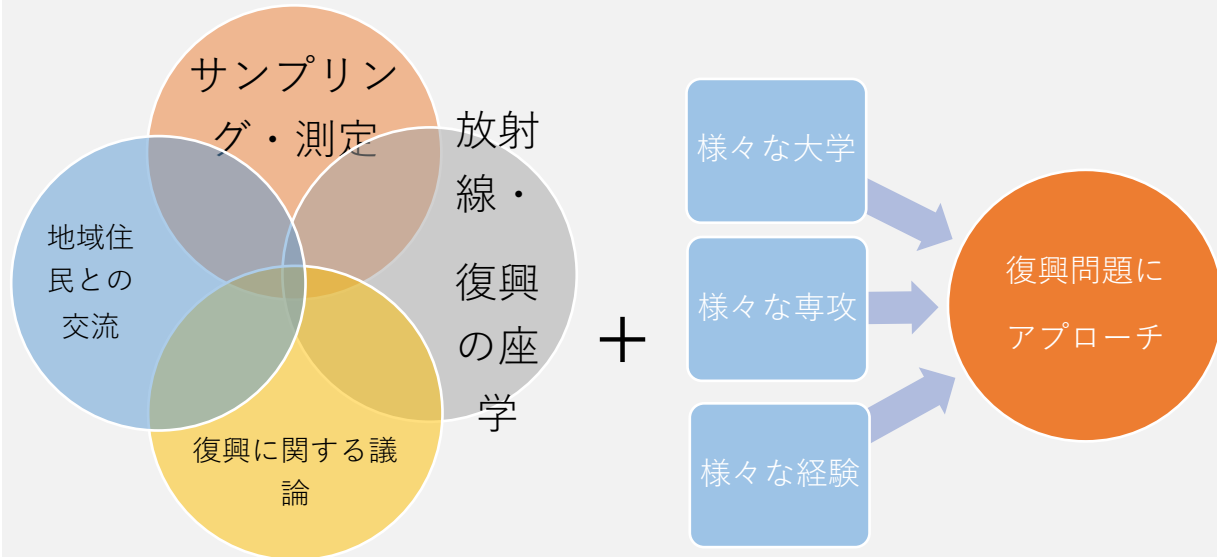


# 大阪大学 福島県浜通り地区環境放射線研修会

## 事業概要

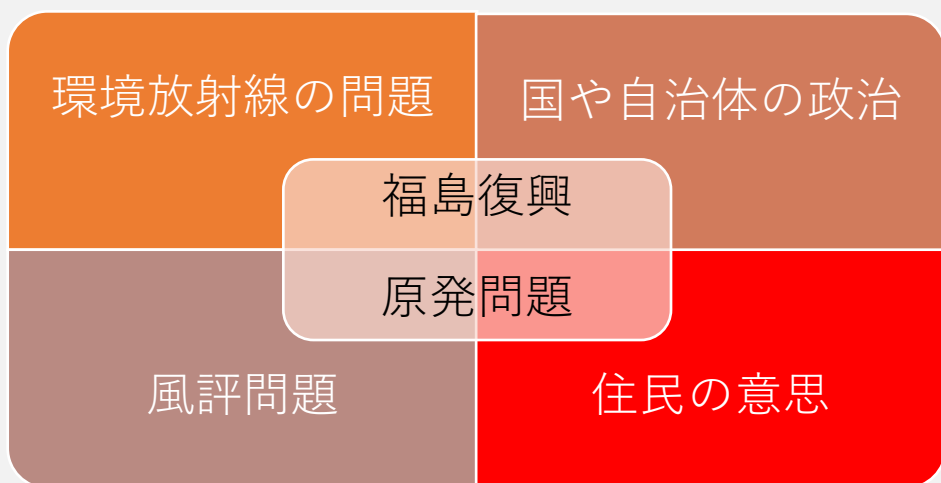
浜通り研修4つのプログラム 参加者の視点、背景の多様性



## 市町村との連携

- ・ **飯舘村**とは、2017年に連携協定を締結。草野小学校を拠点としている。
- ・ **大熊町**とは、2021年に連携協定を締結。Linkる大熊にて研修を実施した。飯舘村、大熊町の分科会に参加し、それぞれにて活動を行なっている

## 人材育成目標『総合的に思考し発信できる人材を社会へ』



単一に見えて、実は複雑に絡み合っている問題を解決していくためには・・・

問題の背景や見えない部分を考える**想像力**と、問題解決に向かって新たなアイデアを生み出す**創造力**が必要

1. **自然科学、人文社会科学**に立脚して物事を理解し、自ら思考できる
2. **情報発信力と国際性**を持つ
3. 人との交流を通じて**想像力**豊かな市民性を持つ学生を育成していく

## これまでの活動内容と課題

### 研修会のプログラムについて

#### <事前講義>

- ・ 大阪大学にて、計15時限の講義
- ・ 放射線の基礎知識や議論の方法を学ぶ

#### (学生の感想)

事前講義で様々な情報を得ることができた。もし知識なしで研修に参加したらただの見学旅行で終わっていたかもしれない。測定の方法の解説があったことで、現地に行ってスムーズに測定することができた。また、議論を通して研修に参加する人と交流できたのもよかった。

油井健之祐



#### <現地での実習>

- ・ 野山や農地でのサンプリング・放射線測定実習

#### (学生の感想)

実際に自分で土壌を採取し、それを現地で測定することで、目に見えない放射線と放射性物質の爪痕が確かに色濃く残っている部分、あるいは除染を終え、復興が進んでいる部分の両方が混在しているという実感が湧いた。

大谷真輝



#### ・ 地域の方との交流

#### (学生の感想)

大規模災害の中で、住民と自治体を守るために尽力した方の努力を直接伺い、この震災を今後の教訓としなければいけないことを痛感した。また、風評被害の多くが理不尽だと感じた我々は、風評被害払拭のサポートをしなければならなかったと感じた。

岡村拓実



#### ・ 学生間での『復興』に関する議論

#### (学生の感想)

私の組では農作物の風評被害について考えた。風評被害払拭のために今日でも厳しい検査が行われているが、「本来の復興」とは安全性の議論がなくなること、本来の福島で評価されることであると痛感した。

梶山和希



#### プログラム全体を通じた学生の感想

浜通り研修には2回目の参加だったが、同じ班のメンバー自体が発信者や科学に「不信感」があるという状態で、前回と異なる視点で話し合いが進むのが面白かった。「正しい情報をどのように伝えればよいか」という終着点は前回も今回も同様だったが、全く異なる前提で考える人同士が集まる事で議論の進め方がここまで変わるのだという事を実体験した。社会においても異なる考えの人だらけの中でどのように情報を伝えるか、議論するかが大切だと感じた。

大島かれん

